



植村 哲

Satoshi Uemura

総務省 自治行政局
地域政策課 国際室長

「経験知の堂宇」の小さな支柱

– Un petit pilier dans le « Palais du savoir empirique »

これまでのキャリアをふりかえって

行政が、収益性だけでは測れない理念を形にし、実践との往復の中で経験知を集積していく存在であるとするならば、総務省とは、国と自治体、行政管理・評価、地方自治、情報通信といった多彩な分野での経験知を積み上げ、なお上を目指す堂宇であろう。25年近く働いてきた自らの存在はそのささやかな柱の一つに過ぎないが、支柱を一つ欠けば堂宇はたちまち揺らぐ。国内外の様々な組織で驚くほど広範な任務にあたり、経験知を自身の糧にすることで、柱は堂宇の重みを支え、さらに高みに導くに値する強靭さを得、かつ雄弁な風格を醸し出す。字の如く「公を担う者」である公務員の力の源泉である知恵と経験が、この総務省という堂宇にはある。埋没せず主張する支柱—この国の「公」を支える柱が一つ、また一つ加わり、弾性と風合いを増していくことを願っている。



ジャカルタでのアジア地方自治セミナーにて司会兼モデレーターを務める

■2013～現在 自治行政局地域政策課国際室長

一見地方自治と縁遠い国際化。しかし、自治体の調達制度に関する国際交渉に直接臨むほか、東南アジアでのセミナーなどで日本の地方制度・運用を伝える国際貢献、JETプログラムや多文化共生施策を通じたグローバルな地方の創生、姉妹都市などの自治体交流における市民社会の価値の共有など、実は立派な地方自治の応用分野と言える。地方—国—外国の経験知からどんな価値を創出するか、刺激的な試行錯誤の日々である。

■2010～2013 石川県(企画振興部長—総務部長)

北陸新幹線開業秒読みの石川県で、並行在来線の立ち上げや能登空港の利用促進などの地域振興プロジェクトを指揮した後、知事の下で県政全般の諸課題を採配し、予算・人事・議会対応を所管。「受け身にならず、守りも固いマネジメント」のための定石・奇手の打ち方を学んだ。県庁若手職員の触発や小学校・音楽などを介した地域活動への参加では、職責外での自らの存在意義を実感し、生きたコミュニティの動態を理解する視座を得た。

■2007～2010 自治行政局公務員部公務員課理事官

政権交代前後の激動期に公務員部の要で業務を総括。公務員制度改革、労働基本権の在り方、臨時・非常勤職員制度の在り方など政治的にも重量級の課題に対処しながら、国・地方の行政組織の在り方、公務分野の次代を担う人づくりの在り方を自問し続けた時期であった。

■2004～2007 在フランス大使館一等書記官

帰京後1年も経たずに大使館へ赴任。中東情勢という全く縁のない分野、全く異なる仕事の手法に戸惑いながらも外交に果敢に挑み、地方行政関連の調査業務や日仏交流150周年の特命事項にも活動範囲を広げる。留学経験を業務に直接生かす幸運を得、内政の知見を武器に「自ら飛び込み事を為すスタイル」に磨きをかけた。家族ぐるみで多くを見聞し現地の知己を得たのも大きな財産。

■1998～2003 鹿児島県(情報企画監—離島振興課長—商工政策課長—財政課長)

都合5年半に及ぶ長期滞在で、三セク解散、国の離島・奄美法制への地方からの関与、特産品振興などの課題に取り組む。離島に代表される条件不利地域の振興促進や、財政改革プログラムの改定など難問山積の予算編成は、振り返れば自治体の仕事の本質を常に問い直す好機であった。議会やマスコミにも通用する説明術を実践で磨いたのもこの時期。私生活でも結婚や息子の誕生、趣味の音楽活動など幾多の思い出に彩られた地である。

■1997～1998 行政局行政課主査(地方分権推進室)

積年の課題であった地方分権の推進に、地方自治法改正の制度設計という観点から若手筆頭として参画。手探りの中で、自治法総則をはじめなかなか従事することのない大改革を直接担当。地方自治への誇りを胸に、未知の領域を戦う厳しい組織体制を支えるための組織哲学を深く刻み込んだ。

■1994～1996 人事院長 期在外研修(フランス留学)

1年目はパリ政治学院の外国人コース、2年目はパリ第一大学でフランス公法の修士相当学位(DEA)を取得。欧州の地域や文化芸術をフル体験する一方、文献を読み漁り、口述発表・試験・論文をフランス語でこなす。仕事を体験してから能動的に学ぶ環境で、明確な目標設定の在り方、簡にして要を得た論理展開への挑戦、業務でも需要が多い欧州の地方自治との比較の視点など、現在の自分を規定する要素を多く獲得した重要な経験であった。

■1993～1994 衆議院法制局第一部第二課

政権交代のうねりの中、野党による政治改革関連法案への対案の審査に従事。初体験で議員立法の法制執務の「流儀」にびっくり。日々変容する政治のダイナミズムを前に、早い段階で政治と行政との関わりを洞察する機会を得た。

■1992～1993 新潟県地方課主事

東京出身の人間が駆け出しから日本海側へ。寒く厳しい冬とは逆に人間味あふれる職場環境の中で地方財政制度の基礎を学ぶ。市町村からの研修生と机を並べ、弟分として地元で連れていってもらったことが「制度に魂を込める」ことを肝に銘じる原点に。

